

「豊かな心を育て文化を大切に にする夢(まち)づくり」を



令和5年度教育行政方針
教育長 岩原 勝行

新型コロナウイルス感染症により、私たちの暮らしが一変して3年余りとなりましたが、現在、社会生活や経済活動も、徐々にコロナ前に戻りつつあります。学校教育では、運動会や学芸会などの行事で、保護者の出席も段々と緩和され、力いっぱい走り、真剣に劇を演じる児童生徒の姿に、多くの参加者が感動しました。また社会教育では、高齢者を対象とした生きがい講座や総合文化祭の芸能発表会など、ほぼ予定通り開催することができました。

このような状況の中で、昨年3月に策定された「第6次弟子屈町総合計画」においては、「豊かな心を育て、文化を大切にする夢(まち)づくり」を教育分野の基本目標としており、この理念に沿って、子どもたちの学びの環境をしっかりと保障し、全ての町民が心を豊かにできる生涯

学習の環境づくりを推進します。併せて、その理念の実現に向けて、弟子屈町教育大綱を兼ね、本年度から始まる「第3次弟子屈町教育推進基本計画」に掲げる各種事務事業を着実に実施します。

学び環境の充実

次代を担う子どもたちが、弟子屈町に誇りと愛着を持ち、持続可能な地域の創り手としての資質・能力を身につけ豊かな人生を切り拓くために、安心して学べる環境づくりを全力で支援します。そのため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導方法の工夫、日常の授業改善を推進するとともに、学校・家庭・地域の一層の連携を図り、地域を学びのフィールドとした学習環境の充実に向け、学校教育の施策を推進します。

生きる力を育む 学校教育の充実

① 信頼される学校づくりの推進

教育を通じて、よりよい社会を創る目標を共有し、学校と保護者、地域社会が連携・協働しながら、信頼される学校づくりを推進。

ホームページや学校便りを通じて教育活動の成果を、保護者や地域住民へ発信。

コミュニティ・スクールの活性化に向け「弟子屈町地域学校協働本部」などの関係機関と連携。

保護者が気軽に相談できる学校、

子どもたちが笑顔で通いたくなく学校づくりを推進。

② 確かな学力のかん養と 情報化教育の強化

全国学力・学習状況調査、弟子屈町学力調査を分析、子どもたちの学習状況の把握と、授業の改善。

学力向上に向けロードマップを策定、P.D.C.Aサイクルを確立。

タブレットの更なる効果的な活用を図り、情報化教育を強化。

「個別最適な学び」「協働的な学び」の構築、主体的に学ぶ学習意欲の向上。

③ 心身の健康づくり

子どもの「生きる力」と「豊かな心」を育成し、健全な心身を維持。

家庭学習の習慣化や規則正しい生活習慣の定着に向けた学校と家庭・関係機関との連携強化。

「全国体力・運動能力、生活習慣等調査」の分析、児童生徒の体力状況の把握と体育授業の改善、P.D.C.Aサイクルの確立。

定期的なアンケート実施によるいじめの未然防止や早期発見。

「いじめ撲滅サミット」を開催、各学校での主体的な取り組みの充実、不登校児童生徒への対応のため、スクールカウンセラーとの相談・支援や関係各所と連携し、繋がることを意識した取り組みを継続。

④ 保護者負担の軽減

平等な学習機会の提供を図るため、経済的に困窮している家庭に対し、学用品費などの負担を軽減する就学援助制度を継続実施。

学校給食の無償提供を継続。

新入学児童祝い品の拡充。

大学進学などの奨学金について、返済免除の制度導入に向けた検討。

⑤ 学校給食の充実

安全な給食提供のため、良質な食材や地場産品の利用、「学校給食衛生管理マニュアル」に基づいた取扱いの徹底。

食に関する幅広い情報普及や児童生徒の健康増進に向けた栄養教諭による食育指導の推進。

学校給食費の公会計化。

生涯学習の推進と 文化の継承

社会や生活様式の変化に加え、新型コロナウイルス感染症により、人と人との繋がり希薄化による課題が深刻化する現代にあつて、社会的包摂とその基盤となる地域コミュニティの果たす役割は一層重要になってきます。誰一人取り残されることがない地域社会の実現に向け、SDGsの視点を取り入れた「第8次弟子屈町社会教育中期計画」に基づき、持続可能な「循環型生涯学習社会」の実現に向け、各種施策に取り組みます。

④ ふるさと学習の推進

小・中高等学校が連携し、地域を学びのフィールドとした探究的な学びの一体的な充実のため、小学校から高校まで系統性の視点から見直し、学習内容を意図的・計画的に設定し、「ふるさと学習」を支援。

小・中学校のコミュニティ・スクールにおいて、学校の応援団として本町の基幹産業である農業や観光産業、自然環境を中心に関係機関・団体との連携強化、各学校の特色ある取り組みを支援。

盟約40周年となる姉妹都市鹿児島県日置市との中学生交流受入事業を実施。



中学生を対象とした陶芸体験教室

⑤ 特別支援教育の充実

「弟子屈町特別支援教育推進会議」を通じて各学校の特別支援教育コーディネーターとの定期的な情報共有。

弟子屈町こども発達支援センタ

1・保育園・認定こども園ましましゅうなど、関係機関との連携強化、特別支援教育を充実。

道立特別支援学校による「パートナーティーチャー制度」などの活用や特別支援教育支援員の適切な配置など、支援体制を拡充。

⑥ 高等学校への支援

「弟子屈高校の教育を支える会」の主導により、地域が一体となつて学校を支えるコミュニティ・スクールを導入。

小・中学校でのふるさと学習を推進していくコーディネーターを高校へ派遣。

希望する高校生への給食の無償提供の開始。

「弟子屈高校でも大学進学や公務員就職などを果たせる学習環境」として公営塾を継続。

優れた自然環境や歴史などを学ぶ弟子屈探究や学力向上、高校魅力化評価など各種事業を支援。

社会をけん引していく弟子屈高校の生徒の人材育成を推進。

⑦ 教職員のスキルアップと働き方改革の推進

学校教育を担う教員の資質・能力の向上に向け、若手教員を中心に授業づくり研修を実施、学習指導の充実の推進。

「教育のICT化」に対応した研修や小・中学校の自主公開研究会の開催、玉川大学との連携による教員の英語指導力向上研修の継続など、教職員の資質を向上。

学校教員の「働き方改革」による

① 学校教育環境の整備

川湯中学校体育館の屋根ふき替え工事、弟子屈中学校屋上の防水塗装工事など、引き続き計画的な改修工事を実施し、快適な教育環境の安定的な提供。

デジタル教科書の導入など、情報が進む未来を見据え、現代社会に求められる知識やスキルを身に付ける教育への的確な対応。

ICT教育に向けた環境整備。

学校教育環境の充実

時間外勤務の縮減。

中学校部活動の地域移行に向け、スムーズに移行できるようにスポーツ少年団や学校、関係機関、保護者と協議。

② 通学体制の確保

遠距離通学する児童生徒や保護者の負担軽減のため、スクールバスの効率的な運行体制を継続。

登下校を見守る交通指導員や子どもサポート隊など、地域住民の協力を得ながら通学路の児童生徒の安全を見守る体制を維持。

安全・安心な通学路確保のため、警察や学校、道路管理者などの関係機関合同で通学路点検を実施。

③ 教職員住宅の整備

経年劣化の補修、住環境の整備。

汲み取り式や簡易水洗が多いへき地住宅のトイレなど、水回りを環境整備の重点改善項目とし、計画的に合併処理浄化槽を設置。

「ふるさと納税」返礼品協力事業者を募集します

町では、まちの価値向上や魅力を積極的に伝えとともに、本町を応援していただける方を増やすことを目的に、現在の返礼品を更に充実させるための協力事業者を募集します。

返礼品はモノだけではなく、宿泊、体験などのサービスも可能ですが、応募条件があります。事前に町公式ホームページをご覧になるか、下記問い合わせ先までご連絡ください。

応募される場合は、以下の日時までに「応募用紙」をまちづくり政策課までメールで提出してください。



- 応募用紙配布場所 / 役場まちづくり政策課、川湯支所、摩周湖観光協会
・町ホームページからダウンロード
希望者にはメールで応募用紙の様式を送信しますので、ご連絡ください。

- 応募受付日時 / 4月12日(木)正午までメールで送信してください。

(furusato_teshikaga@town.teshikaga.hokkaido.jp)

- 既に返礼品協力事業者となられている方は、あらためての応募は不要です。返礼品を変更、追加される場合は追加・変更分の応募をお願いします。

問い合わせ先 / 役場まちづくり政策課ふるさと納税推進係 ☎ 4 8 2 - 2 9 2 3 (課直通)

アトサヌプリ(硫黄山)トレッキングツアーの取り組みが評価

エコまち推進協議会と摩周湖観光協会がエコツーリズム大賞を受賞!

環境省と(一社)日本エコツーリズム協会が主催する、第18回エコツーリズム大賞に、てしかがえこまち推進協議会(会長・徳永町長)ならびに(一社)摩周湖観光協会(渡辺隆幸会長)が栄えある大賞を受賞しました!

全国各地でエコツーリズムの取り組みが進む中、特に2020年より再開したアトサヌプリ(硫黄山)トレッキングツアーの取り組みが評価されました。

2月27日(月)、環境省(東京都千代田区)にて表彰式が行われ、徳永会長と渡辺会長が出席しました。式後の取組発表では、藤原仁エコツーリズム推進部会長が、てしかがえこまち推進協議会の紹介や、アトサヌプリトレッキングツアーの取り組みについて、発表を行いました。



●アトサヌプリトレッキングツアーとは?

平成12年の落石事故をきっかけに入山が禁止とされていた硫黄山(アトサヌプリ)ですが、てしかがえこまち推進協議会が「エコツーリズム推進全体構想」の「特定自然観光資源の指定」という制度を活用し、地域独自の立入制限のルールを定め、そのルールの中で登山ができるようになりました。本制度を活用した事例は、本町が全国で初めてです!

※現在は、認定ガイドの同行がなければ入山できません。



受賞団体にコメントをいただきました!
(弟子屈町公式チャンネル)

●持続可能な観光サミット開催!



「持続可能な観光サミット」が2月14日、岩手県釜石市で開催され、吉備津民夫副町長が参加しました。サミットの中では、持続可能な観光が地域の課題を解決する足掛かりになるとして、参画する8市町(北海道ニセコ町、同弟子屈町、岩手県釜石市、長野県小布施町、京都府宮津市、徳島県三好市、熊本県小国町、鹿児島県与論町)にて持続可能な観光の推進に向けた共同宣言を行いました。

問い合わせ先 / 役場観光商工課観光振興係 ☎ 4 8 2 - 2 9 4 0 (課直通)

生涯学習のまちづくり

①生涯学習推進体制の強化

▼さまざまな学習を行いながら仲間づくりや異世代との交流を通して、心身共に健康で活力ある生活が送れるよう、高齢者を対象とした「生きがい講座」を実施。

②公民館の施設整備と活動の充実

▼地域の方に加え、多様なスキルを持ち移住されてきた方々を講師に迎え公民館講座を充実。



③図書館施設の活用と充実

▼中心市街地再構築事業による新たな施設の検討。
▼ボランティアサークルによる読み聞かせや、読書活動講演会など、関係機関・団体と連携、読書の習慣化。

青少年の健全育成

①青少年の健全育成の推進

▼地域と学校が目標を共有し多様な活動を行う、連携・協働型の地域学校協働活動の実施。

②青少年育成活動の推進

▼豊かな地域資源を活用した体験活動や、白糠町との小学生交流事業、未来こども協議会と連携するJR乗車体験事業の実施。
▼「北海道青少年フロンティアリーダー養成事業」や「少年の主張」への参加奨励、将来にわたりさまざまな活動に対応するリーダーの育成。

生涯スポーツの推進

①住民皆スポーツの推進

▼年齢や体力に応じたスポーツ教室の開催や学校開放事業の継続。
▼箱根駅伝第100回大会に向け合宿に訪れるチームへの支援。
▼合宿誘致委員会と連携した新たな誘致活動の実施。
▼「屈斜路湖オーブンウォータースイミング大会」や「道東野球大会」、「古希道東地区選手権大会」などの運営への積極的な支援。

②スポーツ団体組織の充実

▼スポーツ振興の核となるスポーツ協会や文化・スポーツ少年団への活動支援。
▼指導者の育成を進め、スポーツ推進体制を拡充。
▼全道・全国大会への出場を果たした町内の選手に対する、スポーツ振興助成制度を継続。



③スポーツ施設の整備と活用

▼修武館の窓の改修を行い、冬期間の練習環境を改善。
▼中心市街地再構築事業によるプールの移転に向けた検討。



文化・芸術の継承

①文化活動の推進

▼文化芸術発展のため、総合文化祭の開催や中心的役割を担う文化協会の活動支援を継続。
▼公民館利用サークルへの各種支援、活動成果発表の場を提供。
▼文化振興助成制度による全道・全国大会への出場支援や、各郷土芸能の保存伝承活動に対する支援。

②文化芸術環境の充実

▼幼児から一般成人まで各世代に合った芸術鑑賞事業の実施。
▼近隣市町村で開催される各種公演へのバス運行事業など、本格的な文化芸術の鑑賞機会を充実。

文化財の適切な保全と活用

①地域の歴史の保全と活用

▼摩周観光文化センターに集約された膨大な郷土資料のデータベース化や利活用。

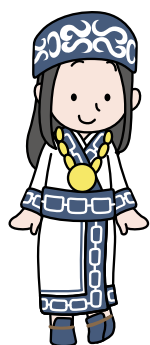
▼専門職員を増員し、他の類似施設との連携など、資料の適切な保存管理や有効活用の推進。

②文化財の保護と伝承

▼玉川大学と共同で実施している、町指定天然記念物・屈斜路湖の「マリゴケ」の植生調査を継続。

③民族資料館の保全と活用

▼北海道大学アイヌ・先住民研究センターの協力を得て、歴史的な地域資源の有効活用に向け、屈斜路コタン地区のアイヌ文化に関するアーカイブ化の推進。
▼屈斜路コタンアイヌ民族資料館の新たな展示資料の作成など、アイヌ文化の普及啓発。



少子高齢化や長引くコロナ禍により、私たちが取り巻く環境に不透明感が漂っており、育て、町民みんな子どもたちを育て、お年寄りを支えていくという、いつの時代でも変わらない普遍的な思いを大切に、それぞれの施策を着実に進めます。